

## 第2回「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」 単純集計の結果報告

このたびは弊センターによる第2回「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

前回（2020年5月実施）に引き続き、本調査は主に以下の目的から企画いたしました。

- ① 葬儀等の儀礼の簡略化が進んでいたなかでの今回のコロナ禍によって、今、大きく儀礼が変容する転換点にあるかもしれないという仮説に立ち、コロナによる影響とそれへの対応を把握する。
- ② 宗派ごとにガイドライン等が出されていますが、個々の寺院では感染予防や檀家ケアに苦慮しているのが現実だと思われるので、現時点での実践知・経験知を集約して、それをシェアすることで各寺院の参考にしてもらう。
- ③ 同様に現時点で個々の寺院が抱える不安や課題を集約、可視化する。
- ④ 宗教者の目立つ活動、発信力ある宗教者がメディア等では取り上げられるが、檀信徒等を対象とした地味で地道な活動（不安にある人々へのメッセージ発信）こそ個々の寺院・僧侶の社会的責任として収集していきたい。
- ⑤ 回答者に追跡調査を実施し、今回の変化・対応、また課題が中長期的にどう変遷していくのかを追っていきたい。

今回の調査は、感染拡大から1年近くが経ちましたので、お盆や定例法要をどのように実施したのかを把握するために質問項目を増やしています。檀信徒からの相談内容、寺院関係者の不安などは、前回調査での自由記述をもとに選択肢を作成しました。

本報告では、回答を単純集計した結果のほか、自由記述に関しては、弊センターにおいてある程度、分類をいたしました。幅広い回答をいただきましたので、不十分な分類となっておりますこと、ご了承ください。問2 1, 2 2など自由記述項目の回答は、出来る限り、掲載させていただきました。感染拡大により僧侶同士の交流も限られている中、意見交換の場としてもご覧いただければと思います。

今後、地域別の比較や前回と今回の両方を回答された217件分の回答比較などを行い、ご報告させていただきます。報告については、月刊『地域寺院』や大正大学地域構想研究所ホームページ、地域寺院倶楽部会員向けの報告会などを予定しております。

本年中に第3回の調査を実施したいと考えております（時期未定）。もちろん回答は任意となりますが、その際にご協力いただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

なお、本研究はJSPS科研費JP20K20336の助成を受けたものです。

## 目次

調査概要・回答者属性	…3頁
(1) 葬儀に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどうな状況ですか。	
(2) 年回法要に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどうな状況ですか。	…4頁
(3) 現在の月参りの件数は、感染拡大以前と比較してどのような状況ですか。	
(4) 現在、月参りをどのようにおこなっていますか。	
(5) (4)で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。	…5頁
(6) 2020年のお盆参り(棚経)はどのようにおこないましたか。	
(7) (6)で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。	…6頁
(8) (新型コロナウイルス感染拡大以降、檀家・門徒・信徒を寺院に集めて行う定期法要(彼岸法要や施餓鬼法要、報恩講など)をどのようにおこないましたか。	
(9) (8)で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。	…7頁
(10) 現在、写経会・法話会・坐禅会・念仏講等の定例行事をどのようにおこなっていますか。	
(11) (10)で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。	…8頁
(12) 現在、毎年行う落語会やコンサートなどのイベントをどのようにおこなっていますか。	
(13) (12)で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。	…9頁
(14) 現在、葬儀や法事の際に、特別に取っている対応はありますか。	…10頁
(15) 新型コロナウイルス感染拡大に関連し、檀家・門徒・信徒の方々から、年回法要についてどのような相談を受けていますか。	…11頁
(16) 新型コロナウイルス感染拡大に関連し、檀家・門徒・信徒の方々から、生活上の相談を受けていますか。あれば、具体的に教えてください。	…12頁
(17) 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、今後の法務や寺院運営に関して気になっていることや心配なことを教えてください。	…13頁
(18) 一方で、前回調査では、新型コロナウイルス感染拡大を檀家・門徒・信徒との関係の再構築や法要の見直しの機会にしたいといった、前向きにとらえる回答もございました。新型コロナウイルス感染拡大は、御自坊にとってどのような機会になると思いますか。	
(19) 前回調査(5月7~24日)では、檀家・門徒・信徒を問わず、不安の中にある人々に様々な手段でメッセージを伝えていることが分かりました。発信手段の利用状況について教えてください。	…15頁
(20) (19)の項目以外にメッセージの発信手段として活用しているものがあれば教えてください。	…16頁
(21) 新型コロナウイルス感染拡大の中で檀家・門徒・信徒問わず不安にある人々にメッセージを伝えてみて、手ごたえを感じたことがありましたか。あれば、その理由も合わせて教えてください。	…17頁
(22) ご意見やご感想等ございましたら自由にお書きください。	…23頁

○調査概要

・方法：インターネットによるWEBアンケート

アンケートページアドレス：<https://forms.gle/q9Md2K1VbL1jZ85X8>

・調査期間：2020年12月7日（月）※～12月28日（月）

（※大正大学地域構想研究所ホームページへの掲載日）

・有効回答数：304名

321件の回答の内、メールアドレスの重複が15件（その内3回の重複が2件）あった。

それぞれ回答日時の新しいものを採用し、古いものを削除した。

ただし自由記載欄は、何度か入力して失敗した可能性があると思われすべての回答を含めた。

○回答者属性

・所属宗派

宗派	回答数
浄土宗(各派)	123
浄土真宗(各派)	77
真言系(各派)	23
曹洞宗	22
日蓮宗	20
天台宗	12
臨済宗(各派)	11
時宗	5
黄檗宗	4
その他	7
合計	304

・寺院の所在地

北海道	10	石川県	4	岡山県	0
青森県	8	福井県	4	広島県	10
岩手県	1	山梨県	2	山口県	3
宮城県	4	長野県	8	徳島県	0
秋田県	2	岐阜県	4	香川県	1
山形県	7	静岡県	22	愛媛県	3
福島県	6	愛知県	13	高知県	1
茨城県	3	三重県	3	福岡県	8
栃木県	2	滋賀県	7	佐賀県	3
群馬県	1	京都府	8	長崎県	4
埼玉県	13	大阪府	14	熊本県	1
千葉県	10	兵庫県	11	大分県	4
東京都	49	奈良県	7	宮崎県	2
神奈川県	20	和歌山県	2	鹿児島県	3
新潟県	3	鳥取県	1	沖縄県	0
富山県	6	島根県	6	合計	304

・立場

立場	回答数
住職	213
副住職	70
寺庭(坊守)	10
その他	11
合計	304

・年齢

年代	回答数
20代	8
30代	54
40代	127
50代	75
60代	31
70代	9
80代以上	0
合計	304

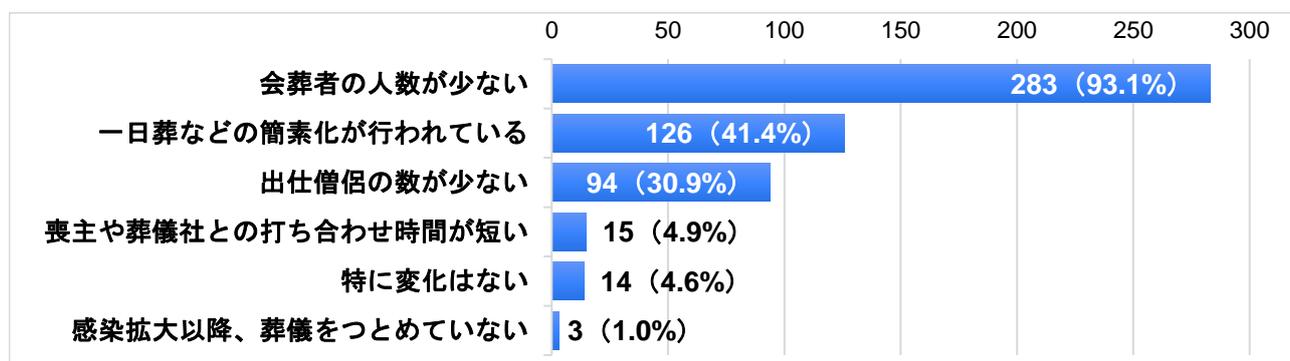
・性別

性別	回答数
男性	284
女性	20
その他	0
合計	304

・調査協力回数

調査協力回数	回答数
はじめて	70
2回目	217
わからない	17
合計	304

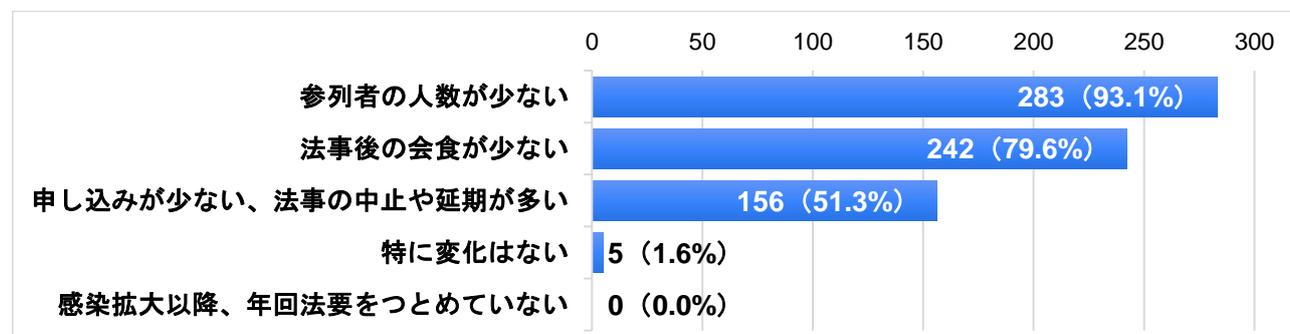
(1) 葬儀に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどのような状況ですか。(複数回答可)



その他(自由記述)の主なもの

- ◇会食(通夜ぶるまい・精進落とし)がなくなった(6件)
  - ・会食が少なくなり、折箱をお持ち帰り頂くことが多くなりました。
- ◇焼香の分散(4件)
  - ・すべて葬儀前に焼香を済ます「流れ焼香(式前焼香)」となっている。
- ◇簡素化の補足(2件)
  - ・密を避けるため葬儀式中に初七日をおつとめすることが多くなった。

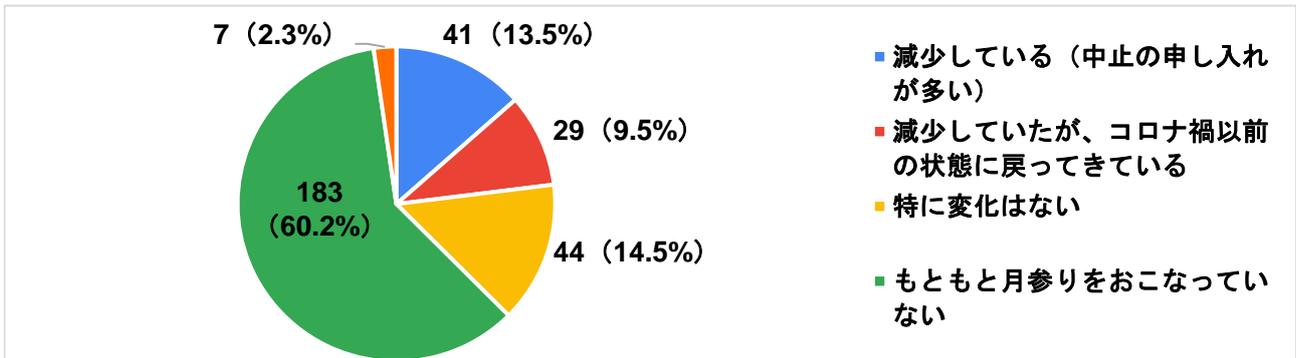
(2) 年回法要に関して、新型コロナウイルス感染拡大以前と比較して現在はどのような状況ですか。(複数回答可)



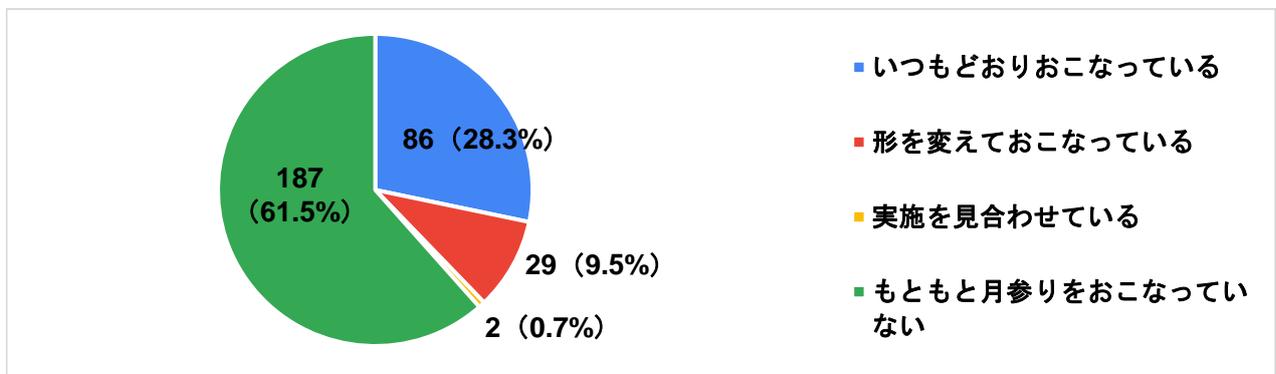
その他(自由記述)の主なもの

- ◇無参列・塔婆供養のみ(4件)
  - ・法事の代わりに読経と卒塔婆をあげておくよう頼まれることが多い。
- ◇場所の変化(自宅から本堂)(3件)
  - ・お寺で法要を行う方が多くなった(空間が広く感染対策に有効だから?)
- ◇オンライン対応(3件)
  - ・1軒だけ東京の方へオンラインで一周忌法要を行った。
- ◇会食辞退・中止(2件)
  - ・法要後の会食は中止にしています。

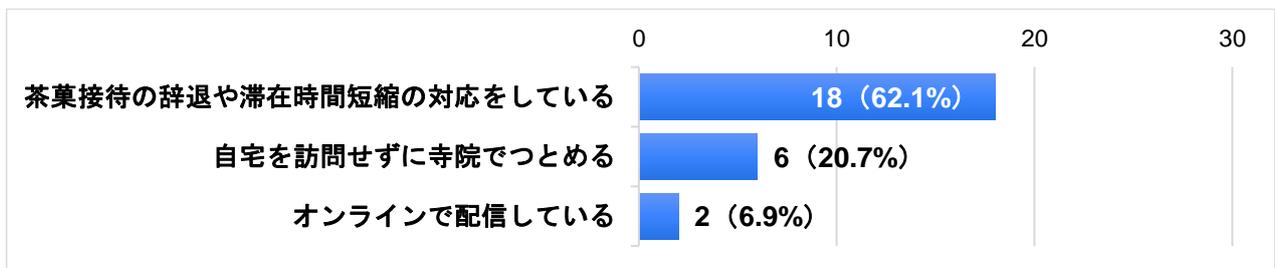
(3) 現在の月参りの件数は、感染拡大以前と比較してどのような状況ですか。



(4) 現在、月参りをどのようにおこなっていますか。



(5) (4) で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。（複数回答可）（29件の回答）



その他（自由記述）の主なもの

◇マスク着用、手指消毒（9件）

・マスクと合わせ読経中はフェイスガードを使用。

◇希望宅のみ訪問（3件）

・月回向希望の有無を問い合わせるアンケートを行い希望されるお宅のみ訪問しています。

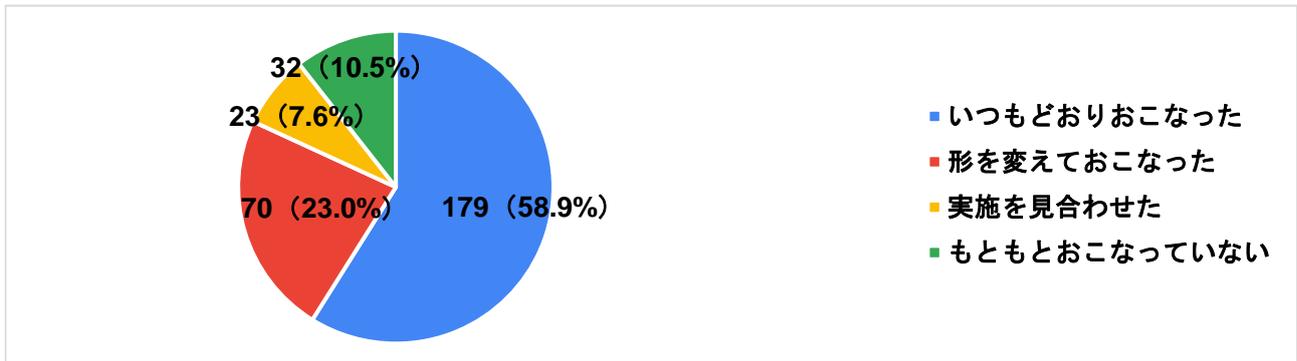
◇仏具持参、経本貸与中止（2件）

・輪棒、ライターを持参

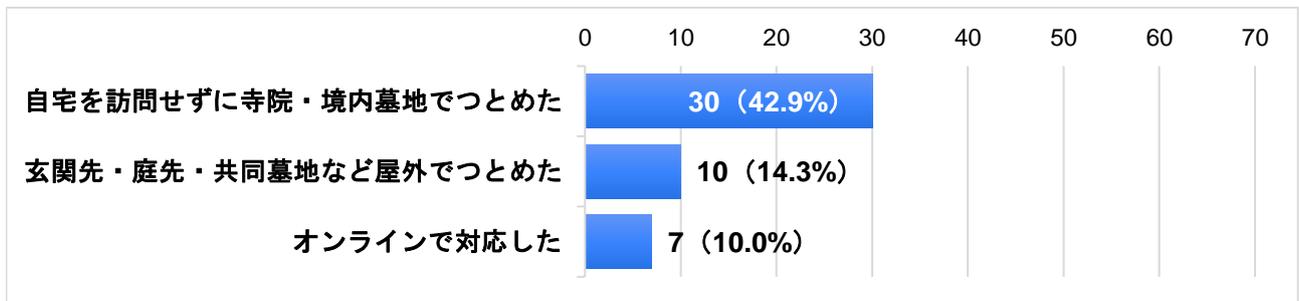
◇距離を離す（2件）

・僧侶＝仏壇前・仏間 檀信徒＝少し離れた場所・椅子等々にして戴く。

(6) 2020年のお盆参り(棚経)はどのようにおこないましたか。



(7) (6)で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。(複数回答可)(70件の回答)



その他(自由記述)の主なもの

◇選択提示・希望確認(21件)

- ・事前にアンケートを取り、①自宅でのお参り、②お寺での法要(施餓鬼)、③今年は中止の3パターンで回答を得た。半数強が③中止、3割強が①自宅でのお参り、残りが②お寺での法要であった。
- ・訪問は希望者のみとしてお盆前に寺本堂にて盆供養法会を実施。参列者は一家族2名までとした。
- ・自宅、玄関先、寺院の三種類を提示して、それぞれ希望に合わせて勤めました(1207-079)

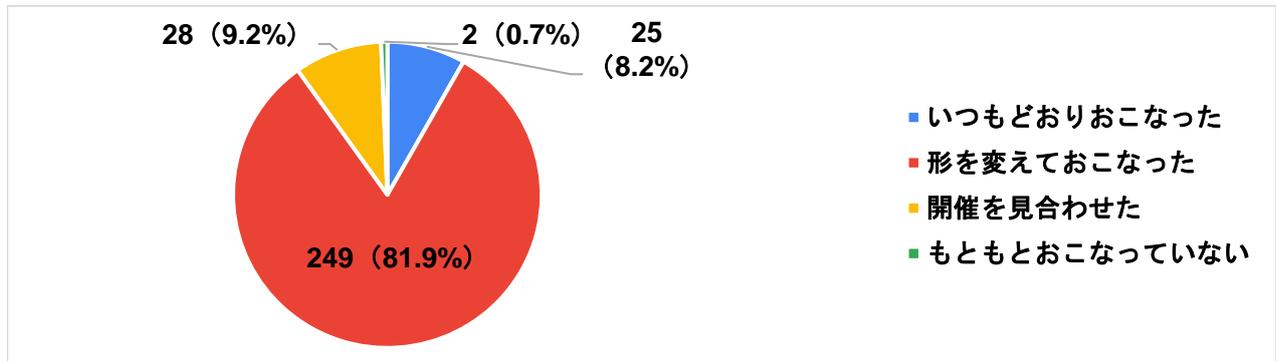
◇マスク着用・手指消毒(10件)

- ・手指消毒、マスク着用
- ・読経は100%マスク着用

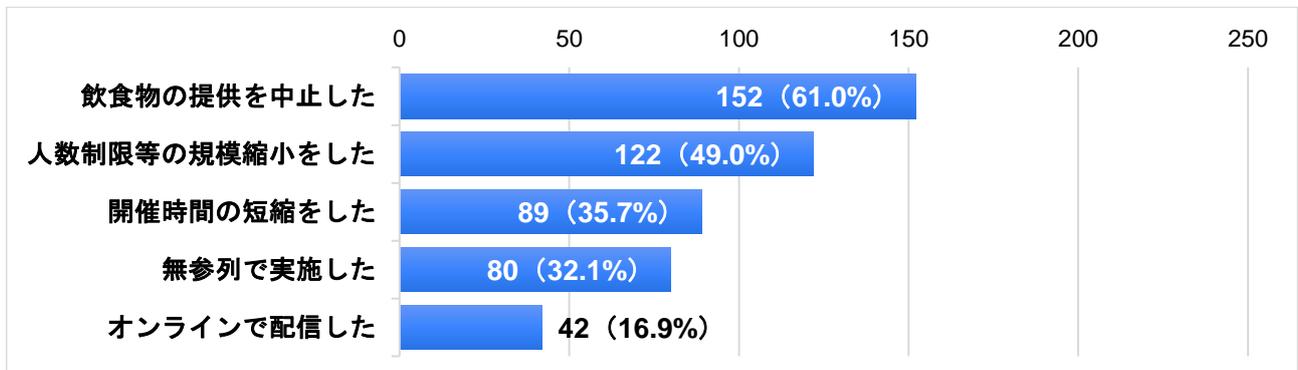
◇滞在時間短縮(5件)

- ・法話をせずにお盆の施本を配り、できるだけ短時間にした。
- ・お茶のお接待を遠慮しました。

(8) (新型コロナウイルス感染拡大以降、檀家・門徒・信徒を寺院に集めて行う定期法要(彼岸法要や施餓鬼法要、報恩講など)をどのようにおこないましたか。



(9) (8)で「形を変えておこなった」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこないましたか。(複数回答可)(249件の回答)



その他(自由記述)の主なもの

◇法要回数を増やして人数を分散(11件)

- ・参拝を二部制にして、「密」を避ける工夫をした。
- ・施餓鬼法要は、人数制限をして2回に分けてお勤めしました。

◇屋外で参列・焼香、堂内入場制限(6件)

- ・焼香を本堂の外から行う形にした。

◇焼香のみ(5件)

- ・お檀家さんには焼香のみしてもらい法要を勤めた。着席せず密集することがないようにした。

◇参列を予約制(3件)

- ・3座つとめますが、参列を予約・総入れ替えとしました。

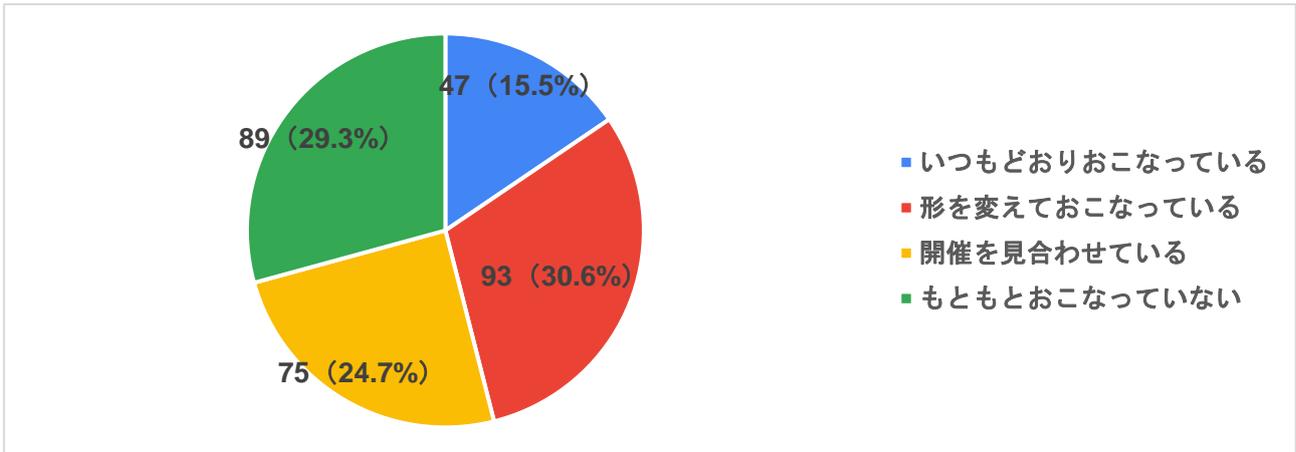
◇会場を分散(2件)

- ・会場を本堂と会館に分けて、会館はモニター中継にした。

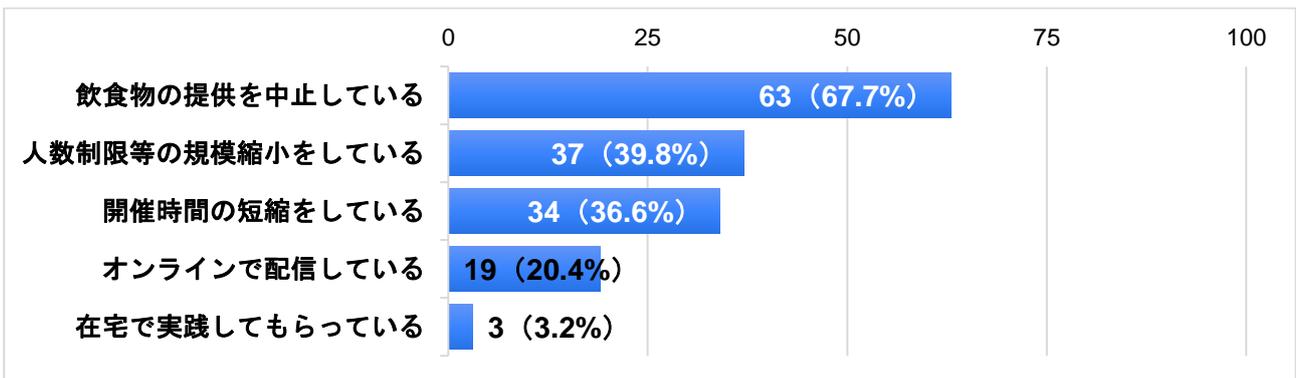
◇飲食物を持ち帰り(2件)

- ・飲食物はペットボトルと持ち帰り用のお弁当で対応した。

(10) 現在、写経会・法話会・坐禅会・念仏講等の定例行事をどのようにおこなっていますか。



(11) (10) で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。(複数回答可) (93件の回答)



その他（自由記述）の主なもの

◇消毒・マスク着用徹底（6件）

- ・消毒、マスク準備等コロナ対策を徹底して開催。

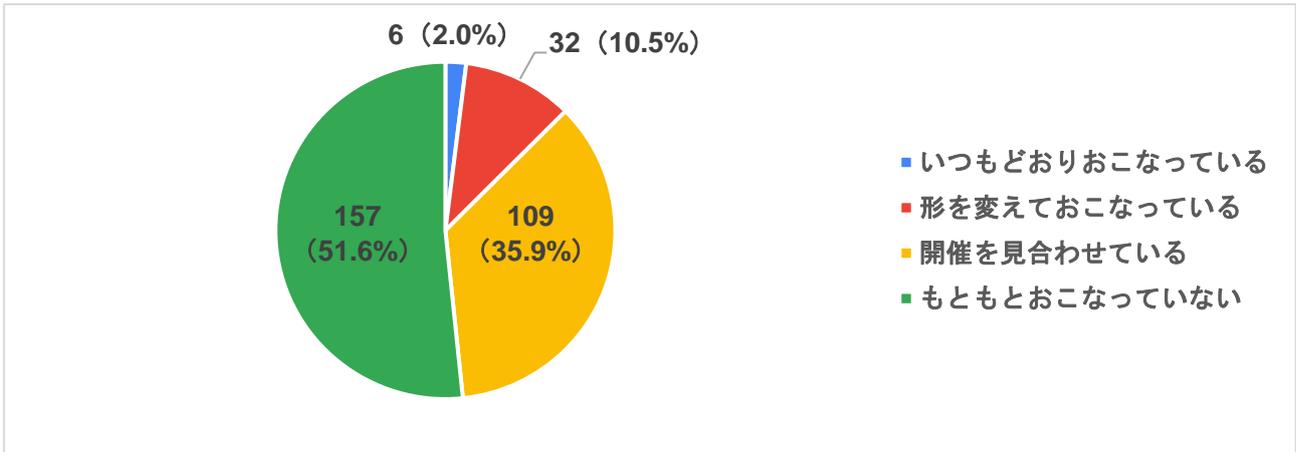
◇仕切りの設置（2件）

- ・参拝者の間に仕切りを設けている。

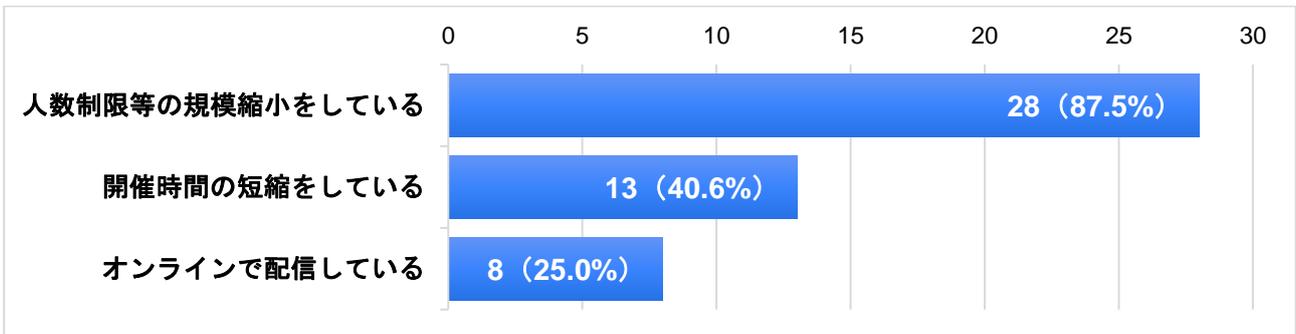
◇会場を広く・座席の間隔広げる（4件）

- ・席の間隔を広くとり配置。

(12) 現在、毎年行う落語会やコンサートなどのイベントをどのようにおこなっていますか。



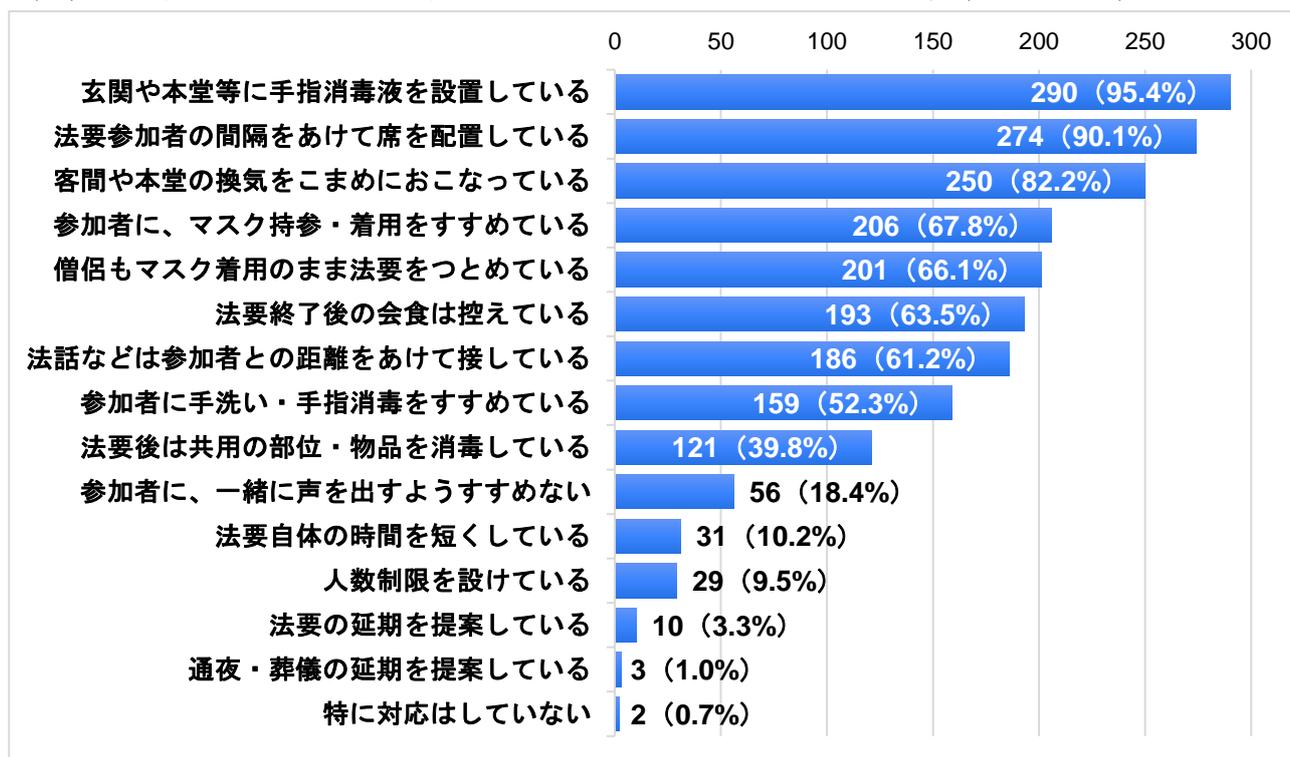
(13) (12) で「形を変えておこなっている」を選択した方にお尋ねします。具体的にどのようにおこなっていますか。(複数回答可) (32件の回答)



その他 (自由記述)

- ・手指の消毒やマスク、換気など一通りの感染予防対策をしている。
- ・屋外でも実施している。
- ・感染対策を行って行っている。
- ・落語の後の、お食事提供を中止。

(14) 現在、葬儀や法事の際に、特別に取っている対応はありますか。(複数回答可)



その他（自由記述）の主なもの

◇設備・施設の工夫

- ・換気のできない本堂は原則使わずにホールをメインに使っている。
- ・会食を希望の場合は、席間隔やパーティションの要不要等施主と相談している。
- ・常時換気を実施。

◇オンライン法要・無参列対応

- ・オンラインでの法要や、併用を勧める。
- ・希望者にはオンラインでも対応している。
- ・代理法要の対応もできることを周知し、法要後に実施報告をしています。

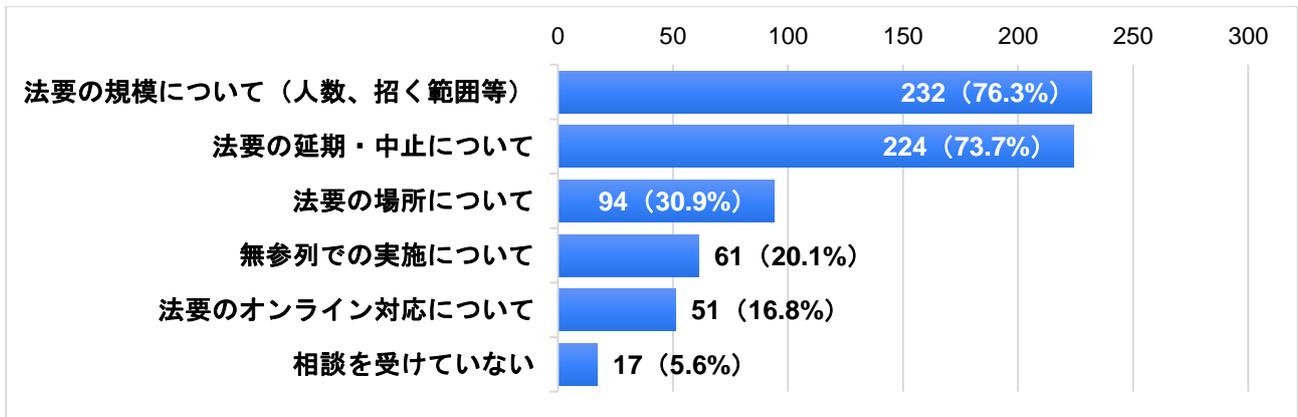
◇マスク補足

- ・読経の際はマスクなし、法話の際にはマスクあり。
- ・僧侶は本堂等広い場所ではマスク着用せず読経（読経以外の法話等はマスク着用）、施主自宅など狭い空間ではマスク着用し読経
- ・僧侶はお経の間だけマスクをはずしている。

◇その他

- ・参拝者には検温をお願いしている(1209-114)
- ・お念仏の声は小さくて良いと言っている。
- ・遠方からお参りが少なくなることを考慮し、墓石チェックなどの対応可能な石材店を紹介する文書を周知した。お盆では例年行っているかき氷ができなかったので、お参りに心が向くことにつながればとお手紙線香ワークショップを開催した。

(15) 新型コロナウイルス感染拡大に関連し、檀家・門徒・信徒の方々から、年回法要についてどのような相談を受けていますか。(複数回答可)



その他（自由記述）の主なもの

◇法要の規模について補足

- ・「今回は家族だけで行って、次の〇周忌には遠くの親戚を呼んで行いたい」という相談が増えています。
- ・親族の中に県外の方がいて、参列しても良いかという相談。年回法要の場合、体調が大丈夫なら基本的には大丈夫とお伝えしている。

◇法要の場所について補足

- ・葬儀会館で実施する法要をキャンセルして、お寺に切り替えた方がいた。

◇オンライン対応について補足

オンラインは何度か行ったが、特に年配者の反響は良くなかった。

◇その他

- ・お斎の中止
- ・まとめて一回でお勤めしたい。

(16) 新型コロナウイルス感染拡大に関連し、檀家・門徒・信徒の方々から、生活上の相談を受けていますか。あれば、具体的に教えてください。(83件の回答)

◇経済的困窮・経営不振 (31件)

- ・従事している職種が、持続化給付金などの公的支援の対象外となっていて、生活に困窮している。
- ・収入が少なくなり 葬式の布施が出せない。
- ・仕事をなくし生活困窮されている方もおられます。生活保護でのご葬儀が増えた。
- ・電話で会社を解雇され、法要を勤められないとの相談。
- ・観光業で生活が苦しく墓地管理費の納入が遅れて申し訳ないなど。
- ・護持費の減免、一時中断の申し入れ。
- ・飲食業の方が、お客さんの数が減り、経営が厳しいことを聞いた。

◇自粛生活、会えない・話せないストレス (22件)

- ・人と話す事が減った、公民館などでしていたサークル活動が無くなった等、楽しみがないと聞いた。
- ・出かけることがほとんどなくなり、足腰が弱ってきていることへの不安の相談をうけた。
- ・嫁に外出をきつく止められる。
- ・人との関わりが少くなることでの寂しさと孤独感。
- ・家から出ることが少なくなり家族同士で言葉が荒くなった等のストレス性の相談が多い。

◇施設での面会禁止 (20件)

- ・入院などの面会に行けなくなり、母親から見捨てられたと言われ、言葉のやり取りに悩まれていると相談を受けた。
- ・病院に見舞いに行けず家族の顔を見られないのが辛い。亡くなられた場合は、直前まで面会できずお別れもゆっくりできなかつたとお話をよく聞きます。
- ・老人ホームにいる親に面会できなくて寂しい。

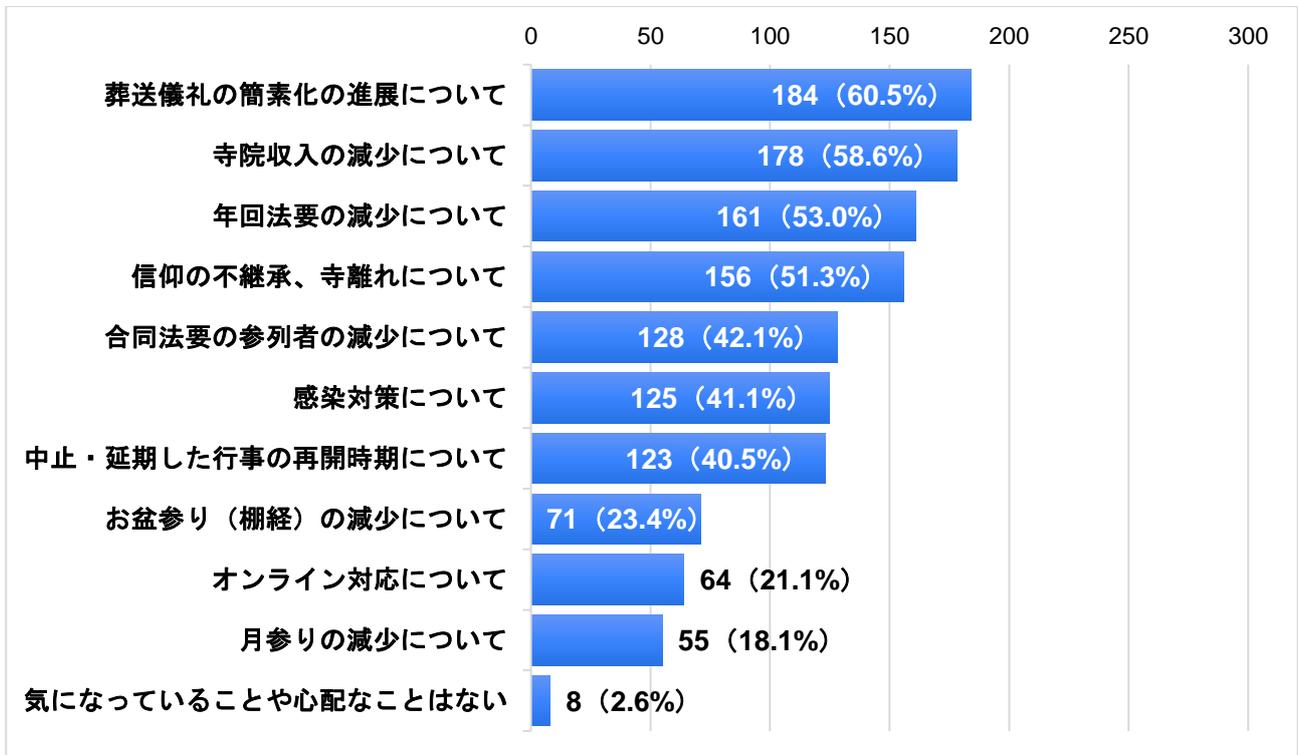
◇感染の不安、ストレス (12件)

- ・自分たちが感染したらこの街に住めなくなるのではないかという不安を語っておられた。
- ・市内で感染者がこれまで1名しか出ていないけれど、年末年始の帰省等で感染が増えないか不安。感染拡大地域の人と接すると不安があるが、それは差別になるのではないかと気持ちが揺れ動く。
- ・不安が強い、デイサービスを利用しているので感染が心配。

◇その他

- ・コロナが原因か分からないが、自殺志願、リストカットなどの匿名相談が増えた。
- ・月参りに伺っている方には、毎月の変化が大変わかるので、その都度愚痴をきいたり、アドバイスを求められたりしている。心身の不調を訴える方が9月末頃から増えた。
- ・外出自粛の2ヶ月で親の認知症が進んだ。
- ・所用で県外に行った後、地域の当番を外された。
- ・コロナで亡くなった際の葬儀の方法などについての相談。
- ・介護の仕事をしているのでお参りができない。親戚が高齢なので法要に同席ができない。
- ・デイサービスに通っている親がいる方から、仕事で県外に行くことがあればデイサービスの決まりで二週間休まなくてはいけないことが大変だと聞きました。

(17) 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、今後の法務や寺院運営に関して気になっていることや心配なことを教えてください。(複数回答可)



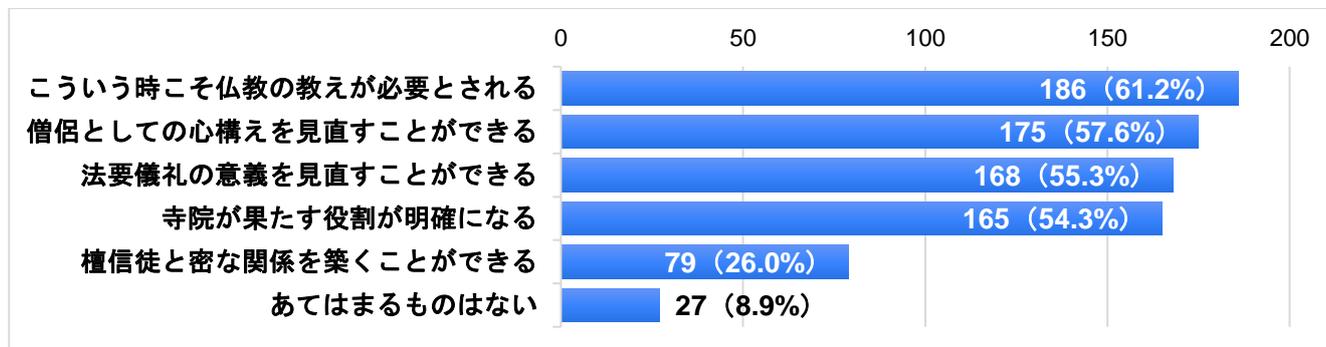
その他（自由記述）の主なもの

- ・表面的なことも心配ではあるが、法を伝え、信仰心を培う機会を奪われることの不安。
- ・以前には戻らないと覚悟している。これからの道のりは何をしても前例がないので、決断に勇気がある。もどれる、戻りたいと思っている人たちとの温度差がひどい。コロナ対策でもパニックのようになって自暴自棄になっている人たちをみる。
- ・遠隔地の檀信徒より、いわゆる墓じまいの相談があった（お参りを続けられるか不安とのこと）。近隣の寺院からも、そうした相談が増えているとの話を聞いている。
- ・個々の寺の護持ではなく、仏法を受け継いでいく意識の希薄化への危機感。
- ・檀家以外の方からの法要申込が増加した。在宅勤務などによって時間が出来たことや、様々な不安によって寺に対して何らかの需要があるのではないかと？多くの寺が元々対応していなかったことで、布教の機会を逃しているのではないかと？
- ・オンラインさえも受け入れられるようになった今、さらにその先の新たな可能性の模索について。
- ・新型コロナウイルスで想定されている影響はもともと少子高齢化で想定されていたものなので、将来への心配はあるがそれは少子高齢化によるもの。
- ・本山への上納金が払えるか？心配。
- ・老年層の意欲減退による門徒組織の不活性化。
- ・政府の対応を見ていると感染症の対応をしているようには見えない。中小企業も半分にすると言って

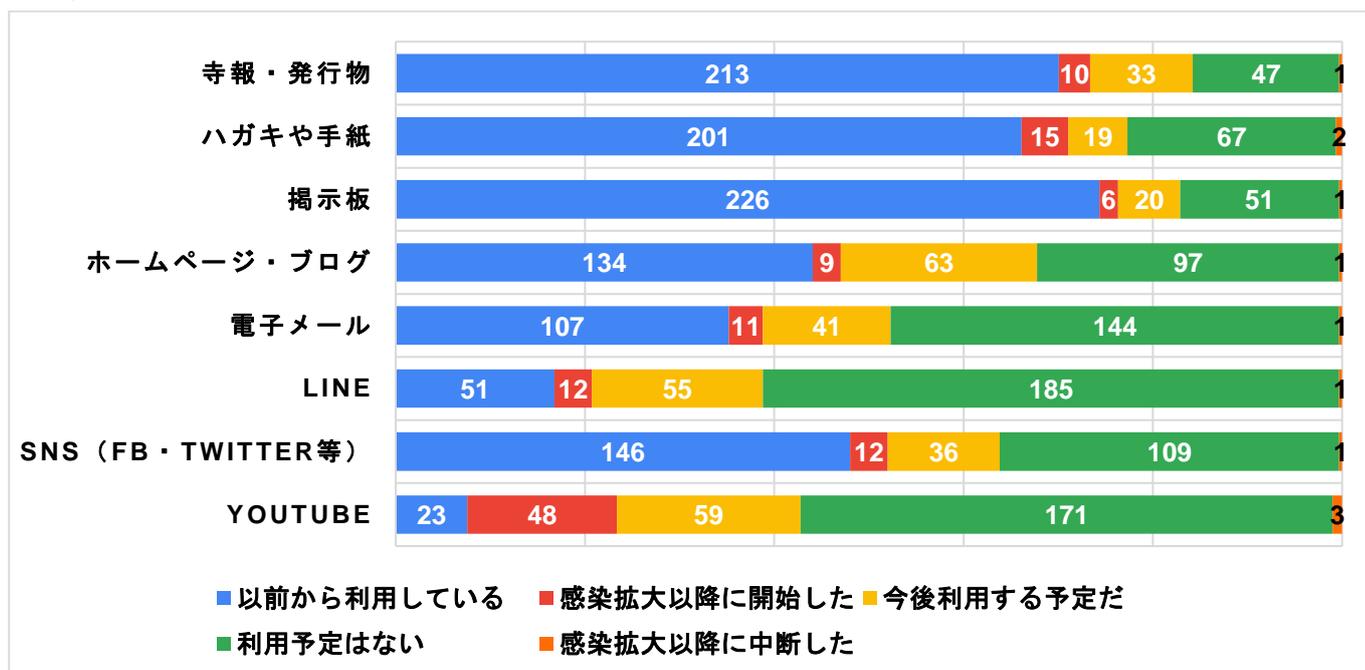
ることから、これからお寺の収入は激減していくことが予想されます。

- ・それは元々、将来には起こっていたことなので、特に気にはしていません。
- ・あらためて参禅の意義と、坐禅が人の心にもたらす役目を再認識できた。又、自分自身が感染してないか、常に不安であると同時に、自分が運んでしまわないか？又、寺院や、お参り先がクラスターにならないか？等、常に不安で自律神経が狂ってきている。この機会に、役員方と一緒に、変革出来る良い機会でもある。
- ・信徒、観光者（遠方者）のお参りに対し、地元檀家の感染拡大危惧。
- ・遠方の檀家との墓じまい問題解決のための相談が進まなくなった。墓じまいには費用が掛かること、遠方のため訪問することもできず縁遠くなったことなどが原因かと思われます。今のうちに解決していきたいというお寺側の思いに、コロナ禍が障壁となっていると感じています。
- ・今後、安心安全にお参りしてもらうことについて、いろいろと悩んだり気を遣います。
- ・葬儀や法事でクラスターが発生してしまわないか。
- ・葬儀に参加したいのに参加できない方の心の状態が心配です。オンラインなどもお勧めしていますがあまり活用されないようです。また、参列者が少ない為に、参列の親族と触れ合うことで自然にできていたグリーフケアができなくなっています。
- ・コロナへの不安が多く、オンラインの活用もできない年配者層への対応。
- ・宗派や宗内シンクタンクがトンチンカンな対策をしないか…。
- ・今のところ適切に対処できていると思う。

(18) 一方で、前回調査では、新型コロナウイルス感染拡大を檀家・門徒・信徒との関係の再構築や法要の見直しの機会にしたいといった、前向きにとらえる回答もございました。新型コロナウイルス感染拡大は、御自坊にとってどのような機会になると思いますか。(複数回答可)



(19) 前回調査(5月7~24日)では、檀家・門徒・信徒を問わず、不安の中にある人々に様々な手段でメッセージを伝えていることが分かりました。発信手段の利用状況について教えてください。



	寺報・発行物	ハガキ・手紙	掲示板	HP・ブログ	メール	LINE	SNS	YouTube
以前から利用している	70.1%	66.1%	74.3%	44.1%	35.2%	16.8%	48.0%	7.6%
感染拡大以降に開始	3.3%	4.9%	2.0%	3.0%	3.6%	3.9%	3.9%	15.8%
今後利用する予定だ	10.9%	6.3%	6.6%	20.7%	13.5%	18.1%	11.8%	19.4%
利用予定はない	15.5%	22.0%	16.8%	31.9%	47.4%	60.9%	35.9%	56.3%
感染拡大以降に中断	0.3%	0.7%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	1.0%

(20) (19) の項目以外にメッセージの発信手段として活用しているものがあれば教えてください。(34 件の回答)

◇電話 (4 件)

- ・電話で直接お話しして、こちらの発信より、あちらの発信を受け取るようにしている

◇zoom (3 件)

zoom でのお勤め

◇寺報・発行物の補足 (3 件)

- ・法事や葬儀のガイドラインを発送。またオンラインで法要ができることを案内した。
- ・寺報に QR コードを付け、活動の動画も周知しました。

◇メール・LINE (3 件)

- ・SMS、全檀家に配信。

◇マスコミ (3 件)

- ・この状況下でもできるイベント（高齢者向けのイスを使った体操など）を企画し、地域のタウン誌に取材してもらう中で、お寺としてのメッセージを記載してもらう。

◇ハガキ・手紙の補足 (2 件)

- ・無参詣法要が多かったため、回向の申し込みの檀信徒へ、法要終了後、お礼を兼ねて、冊子や御朱印のような形で回向之証を書きお送りしたり、寺で咲いたハスや彼岸花の写真葉書をお送りしたり、以前より、郵送する部数、回数が増えている。

◇対面 (2 件)

- ・当山では写経会やご詠歌の集いのあとに 1 時間ほどのお茶の時間を設けています。このような小さな集りのなかでの会話そのものがメッセージの発信手段だと捉えていますので、今後も例えば映画観賞会などの集りを試み、その機会を増やしたいと考えています。

◇イベントのチラシ・広報 (2 件)

- ・屋外での感染防止策を取ったことをアピールしたイベントの開催、もしくはそのチラシや広報。これにより、地域の人に安心感と不安感の軽減、希望、新しい関係性の構築、現在できるコロナ対策の宣伝を実施している。

◇その他

- ・地藏堂において掲示板による教化や涎掛け、提灯募集でお参りをうながす。
- ・古典的だが FAX。
- ・地域の多職種との連携
- ・寺院用携帯のメッセージ機能や LINE、電子メールを使う方が増えたので、相手の希望する媒体にそれぞれ対応している。
- ・メッセージの受信手段としてハガキの一字写経。
- ・緊急事態宣言後に全檀家に疫病退散の御札を配布する。

(21) 新型コロナウイルス感染拡大の中で檀家・門徒・信徒問わず不安にある人々にメッセージを伝えてみて、手ごたえを感じたことがありましたか。あれば、その理由も合わせて教えてください。(98件の回答)

◇文書の送付、御札・マスクなどの配布

- ・交流が減っている中、手紙やメール、行事後の近況報告などに触れ、安心したと仰っていただいた。
- ・マスク（少数）の配布。袋に疫病退散と記入。
- ・お見舞いとしてマスクを送った際には喜ばれた。また、葬儀などに参列できないからこそ、今後年忌法要の意義が重要となるため、そのことをお伝えしたいと思っている。
- ・少数での授戒（生前戒名授与）を予定しており、その事前の心構えなどをコロナ禍中の心構えも併せてしたためた文書を送ったところ、参加予定になかった家族も参加することになったりして、関心が高まった。
- ・初めて年中行事の弁天堂ご開帳法要で御札を手書きで作成し配布したところ、こちらが思っていた以上に安心を与えることができたようで、複数の檀信徒から感謝された。
- ・第1波の時に住職の手紙と御守を全檀信徒に送ったところ、その後感謝のメッセージやご寄付が寄せられた。
- ・疫病退散の御守を送ったところ、大変喜ばれ、家族や親戚、仕事仲間、従業員などに配りたいと多くの追加注文があった。
- ・利剣名号のお札を配り檀家に喜んでもらえた。
- ・一人暮らしの方への教化。直筆の手紙をポストに投函する。
- ・アマビエの護符を作成したところメディアに取り上げられ、関東方面を中心に全国からネットでお申し込みが100軒あまり有り反響が大きく、コロナ禍で多くの方が神仏に救いを求めていると感じた。（アマビエ人気に乗ったみたい複雑ですが…）
- ・代理墓参法要の報告を写真付きで送ったところ、非常に喜ばれました。新たに発信する寺報については年内中に発送するので、これから反応が寄せられるだろうと思っています。
- ・法話会を中止した期間、紙上法話会「お手紙法話」等を発行したが、その後会った多くの門信徒から感想を頂いた。普段、法話会にこれならない門信徒が法話に触れることができたことが反響につながったと思います。
- ・感染対策の寺院ガイドラインを4月に作成して配布したので、おおむねそれにしたがってもらえたと思う。
- ・「住職のこえ」と題しハガキを送り、孤立気分が和らいだと言われた。
- ・本山から送られてきた疫病除けのお守りを、法事後簡単な説明をして檀信徒に差し上げているが、喜ばれるケースが多い。
- ・寺院から法話を印刷物やブログにして配信しているが、喜びのお手紙や郵送でのお布施、中元歳暮が増えた。
- ・お寺から手紙などの返信が届いたときには、大いに喜んでおられるご様子でした。また、寺報をご覧になった方々から多くのお浄財や食糧などが届けられ、困窮する人たちに使ってほしいとメッセージを頂戴することもありました。孤独の寂しさから喜ぶ方もあれば、コロナで大変なときだからこそ、

誰か困っている人の力になりたいと願っている人たちの気持ちにつながったのだと思います。

◇オンライン対応（SNS・動画配信・リモート法要）

- ・特定の方(自死遺族)を対象とする法話の会の参加者によるライン上で短い挨拶程度の法話を掲載し、後日感想を得られた中で、非常手段としての効果を認めた。後に、実際に「会って話せる関係があつてこそ」という中での実感。
- ・Instagram、YouTube で法要前の準備を配信して、今まで見えなかった部分に興味を持ってもらえたり、元々足が不自由でお寺に来れなかった方が見ることができて喜んでもらえた。
- ・YouTube ライブ配信をすることによって、老人ホームや病院からでも法事や法要に参加できたと喜ばれた。コロナ禍が終わっても配信自体は続けていく意味はあると思った。
- ・5月頃、遠方のお檀家様に個人向けの限定配信 YouTube 動画で短い法要とメッセージを UPLOAD した所、12月の現時点で再生回数が180回を超え、ほぼ毎日ご覧いただいている事で少なからず励みになっている事を実感しております。
- ・年配の方もお子さんやお孫さんに聞いてLINE登録してくれている。世代間コミュニケーションの一環。
- ・法話動画（10分程度）の配信をはじめのきっかけとなった。反響はある。
- ・オンライン法要も20件以上行い、ご家族からも好評であった。
- ・オンライン坐禅会を毎日朝晩開催しておりますので沈静化後のつなぎや新規体験者の拡大に少しは貢献できていると思います。
- ・オンライン坐禅会や写経用紙を郵送。かなりのリアクションがありました。オンライン坐禅会は国内外から毎回150人の方にご参加いただいております。
- ・ウェブ経由の発信だと、これまで主な対象から外れていた世代との接点が生まれたと感じています。一方で、これまでの対象（主に高齢者）との距離感が難しい状況に感じています。
- ・YouTube での動画配信やブログ配信を活発化した。ご覧いただける方からは、喜びの声をいただけている。また、仏縁の機会が増加するようにも感じる。
- ・HP 上に、無料で相談、お話を受ける旨を掲示したら、相談の電話が多くなった。この状況に不安を覚えている人は多いのだと思う。
- ・無理をしない、させない寺院運営。コロナに対する思いは千差万別。オンラインも活用して各々の思った形で無理なくお寺に関わってもらおう。
- ・メールでの相談が増えた。

◇対面での会話、寄り添い

- ・クラスター発生で世間で誹謗中傷や差別心があるなか、住職と話しをして、その恐ろしさや、そういった心は、この私の中にも潜んでいたと、あらためて気付かされる機会を得た。
- ・より長い時間話す檀家さんも増えて、人と人とのつながりの大切さを実感できた。もちろん感染対策取ったうえで。
- ・話したい、分かち合いたい欲求がたまる中で、寺や僧侶が受け皿になることを進んでやってみたら、定期的に継続してもらおうように要望があった。
- ・世間話程度でも、話をする事で不安の解消につながると感じた。

- ・無理にお参りを依頼しない方がかえってお参りを依頼されるし、行事にも穏やかに参加いただける。相手に軸を置いて、場を開くことを大切にすれば、コロナ以前より充実した時間をご門徒と共に過ごせました。
- ・メールや来訪して不安な気持ちを吐露される方がいらっしゃいます。当山に安心感を持っていただけているからこそだなと感じています。
- ・普段のお付き合いの時に「いつも色々と考えてくれてありがとう」と一言いただいたり、お歳暮のお供えもとても増えて驚いています。
- ・葬儀や年回法要など、参列者が少ないだけ施主家の人たちとゆっくり話ができます。お客様の対応に追われていた従来よりも、深い関係を築くことができているように感じています。
- ・訪問しづらい時期に電話で連絡をした際は御礼を言って頂きました。葬儀や法事でご相談を受けた際に、檀家さんのお考えを伺い現在の状況などを鑑みながら進めることで相談された方が安堵されることが多いです。コロナ禍の中でこうしたいという思いはあっても自信が持てない場合は住職などの誰かに後押しをしてもらうことを望んでおられたり、どうしたら良いかもわからない方は選択肢を示すことで決めることができたりするのではと感じています。
- ・メッセージを伝えるというよりは、お参り来られた方の話を聞く時間がいつもより増えたように感じます。ただ話を聞く、それだけでも少し気持ちが和らいでるように感じました。
- ・外出自粛で話し相手として住職を頼りにしてくれている。

◇掲示板

- ・門前の伝道掲示板を見て、声を掛けて来られた方があった。その後に坐禅会にも参加されたが、息詰まる様な日々ありがたい言葉だったとおっしゃった。当寺では定期的な坐禅会はしていないが、こういう機会も大変助かるとの事だったので、定期的な開催も検討している。
- ・寺報や掲示板の発行回数を増やした。孤独や孤立の不安感からか、お墓やお寺に関心を持っておられる方が増えたように思う。
- ・お寺の掲示板を毎日更新に増やしたが、より注目度が高まった。
- ・休校からの再開時に子どもたちと先生方に激励のメッセージを掲示板に出したところ、大きな反響がありました。今は『つらかったら話してみよ』と常時貼り出しています。実際に足を運ばなくても救われたとお声がけをいただくことがあります。
- ・掲示板を見て不安の中からのちの尊厳、つながりあういのちを見出し安心感を見出した。

◇法話

- ・法話の中で、この状況だからこそ、御開山聖人の教えを見直し、自分を見直すことをしていきましょうと話すと、多くの方がうなずきながら、同調してくださる。
- ・法話の中で感染症によって失った物があることを伝えつつ、逆に気付いたことや思い出した大切なこともあることを伝えるようにしている。(命や縁、当たり前前に思っていることが、本当は有り難いということ話を話している) その話について「大切なことだ」「よい話を聞いた。気がつかなかった」「今を大切に生きていこうと思う」等の言葉をいただいている。
- ・法事のあと「いいお話をありがとう」と声をかけられた。法話に込めた苦しいときだから支えあっていこうの気持ちが伝わったのだと感じた。

◇イベント

- ・おてらおやつクラブや手作りマスクの配布等でつながった方が集まって、おてらマルシェを開催いたしました。檀家さん以外とのつながりが広がっている気がします。
- ・予約制でお一人様写経会（家族）を導入しています。落ち着けるからです。

◇対策をしながら、例年どおりに行う

- ・棚経や彼岸参りで、お檀家様宅に例年と変わらず、マスクを着用し、1軒ごとに手の消毒をして参りましたが、「こんな時でもお参りに来てくれて、ありがとう」と感謝の気持ちを伝えられたお宅が複数あった。コロナ禍で不安になる中、工夫して変わらずに行うことの大切さ、僧侶としての勤めの意義を再認識した。
- ・年中行事を人数制限をつけるなどしても寺側が必ず行うことは、当たり前のことを当たり前に行う日常の再確認と檀信徒側は受け止めたようだ。このような時だからこそ、寺は信仰というか、祈りの場所になっていて欲しいという檀信徒側からの思いを感じた。

◇伝えた内容

- ・PCR検査のインチキに惑わされないで、自分自身の免疫力を上げて、風邪やインフルエンザにならないように伝えた。みんな目が醒めたようだった。
- ・人と人との間は三密にならぬようソーシャルディスタンスが必要ですが、仏様（ご先祖様）との間にはソーシャルディスタンスはありません。いつでも密ですとお伝えしたところ安心されておりました。
- ・平穏に過ごすことを指導している。マスコミの影響が大きく、事実を知らせると安心できるようである。
- ・不安に囚われない様伝えていく。安心してお帰りになれます。
- ・当寺では、上久保教授の集団免疫説を全面的に支持し、お寺の定期的な発行物と一緒に、要約した内容をお檀家さんに配布したところ、不安が減ったという声を多くいただいた。またお十夜法要でも、住職が1時間にわたり解説したところ、コロナに対する過度な不安が減ったとの声があった。さらに、年回法要の際にも、PCR検査のカラクリなど、日ごろから情報収集している新型コロナウイルスに関する内容を法話に盛り込み、過度な心配は不要であると伝え、テレビの情報のみを見て恐れ慄いている檀信徒の皆さんから好評の声をいただいている。
- ・十分安全に配慮されていると感じられた方には出かけることも勧めてみた。実行されたかはわからないが、そうした話だけでも、気分が一時的に解放されたように感じた。
- ・コロナ禍というのが新型コロナウイルスをわざわざしている私達の都合という煩惱がある。頷いていただきました。
- ・4月の対応で、感染症への明確な対応指針を示したことで、安心・信頼をいただいたように感じています。月参り・法事について、ほぼ件数としては元に戻っていること、工夫する際への協力姿勢などから、そのことを感じています。
- ・感染拡大に関してのメッセージはこれから年末で伝える。ただコロナがまだ増減を繰り返している9月段階でのメッセージでは、数字や論理を基に自分は考えていて、だから人数制限をしながら行事を行っていると伝えたが、それでもやはり檀信徒、特に女性は「怖い」「恐ろしい」と言っていた。つまり、こちらのメッセージはしっかりと届かず、感情で物事を判断していると感じた。

- ・新型コロナウイルス感染者、医療従事者などへの差別をしてはいけない、許さないことを住職として発信したら、檀家さんから共感を得ることが出来た。
- ・新型コロナウイルス感染症の情報が沢山ある中での、お寺から発信する情報の伝わり方。やはり知らない誰かではなく、知っている住職からの情報は有難いとのこと。
- ・疫癘章を紹介しながら「どんなに気をつけていても感染する時には感染します」と伝えると、安堵される。
- ・新型コロナが流行してから3度寺報を発行していますが、例えば、現在提唱されている三密回避を密教における三密に対応させた記事などには、少なからず反応があるので少しは役にたっているかなと思っています。
- ・【伝えていること】必ず、他に想いを馳せる重要性を説いている。また、明るく正しく仲良く、時節柄、それらに加えて健やかに、ということを法話でお伝えしている。【お檀家様からいただいたお言葉】和尚さんのお話を聞くと安心する。お声を聞くと安心するというお言葉をいただきます。こういう時期だからこそ、疑心暗鬼になったり心が揺れ動いたりすることがあるけれども、お寺に来ると安心するというようなご意見をいただいた。【個人的に】お寺に足をお運びくださるお檀家さま方、あるいはそうではない方々が心から安心し、安らぎを得、心落ち着いて帰っていただける。そんなお寺、僧侶であれるよう、未熟ではあるが、さらに精進していきたいと思う。
- ・コロナ禍の不安を通して私自身の不安の根源に向き合うことが大切。
- ・葬儀・年回が不十分ではないかとの不安を示された方に、十分勤めておられると、理由を添えてお伝えしたところ、安堵された。そういった、目に見えないことに対する不安に自信をもって対応できる時。
- ・はがき・電話で家の中での過ごし方で、身体を動かす軽い体操を勧めた。

◇結果として得たもの

- ・死についてより深い話をする機会、生を見つめなおす機会となっている。
- ・試行錯誤しながらでも、努力を惜しまぬ姿勢が大事だと思う。やりようはいくらでもあると思う。そういう点では、良き機会としている。
- ・世間の見方が、仏法に遇う機会だったと、気づいた人があった。
- ・「苦しみ」を出発点としている仏教の意義を共有できたように思います。
- ・不安とは何なのか。法事、法座、寺報でお伝えし、みんなで考え共通課題にしていくことで繋がりが出来てきた。不安は迷いに過ぎないが、やはり不安になります。そこで、不安を喋り、お互い共有しあうと、不安ながら生きてゆけます。
- ・(手応え) 仕事や生活の様子をたずねて、いままで知らなかった過程の状況等も含めて知ることができた。(理由) お互いが同じような状況にあることから、共感しあえることが大きいからかと。
- ・感染拡大を必要以上に怖れる方、騒ぎすぎだと楽天的に構える方、どちらも寺にはおとずれるが、どちらの方にも寄り添うために、正しい知識と、普段の信頼関係を構築するためのコミュニケーションが必要だと改めて感じている。
- ・旅行等、人の移動も取りざたされているが、近隣の方が、観光寺院ではない、地元の寺の魅力に気づくよききっかけにもなっていると感じている。

- ・能動的に発信することの大切さがわかりました。
- ・現在のような状況下で仏さまのみ教えが改めて人々に見直されて始めているような気がいたします。葬儀・法要の大切さを理解できたのではないかと思います。
- ・ヘルシーテンプル@オンラインの取り組みは必要だと思った。
- ・コロナ渦において、改めて家族や友人、絆を見直す機会となった。
- ・法話などで、「病・死」という問題を自身の問題として、実感を持って受け取る方が増えた。何となく頭ではわかっていたが実感を持って感じる事ができているのだと思う。
- ・日常生活において、持っている悩みは似通っていることが分かり、話が通じた。

◇その他

- ・境内で遊んでいるこどもたちの歓声を久しぶりに聞いたと笑顔でしゃべるお年寄りの姿をみたとき。
- ・手応えはあるが、皆不安すぎて可哀想である。
- ・寺院内の法要を庫裏にもリモートして行うようにした。
- ・皆、お寺に集まって、おしゃべりをしたがついている。
- ・親しい友人など、特に海外在住の有縁者に多いが、テレビ電話などで、たった数分、会話が出来ただけでも、お互いが、安心を持てた事や、全国各地で様々な違いを理解し合えた。
- ・本山には、このコロナ禍にあってもたくさんの方々が法話を聞きにお参りして下さいます。
- ・未だ特效薬も無いのに信仰で治癒できるなどの嘘もつけないから、暖簾に腕押し！？状態でしょうか。
- ・フードバンクを始めたところ各方面からお問い合わせをいただいた。
- ・お盆の精霊送りにお参りされた方は昨年より3割増でした。
- ・家族にも会うことをためらい精神的に限界にきている人、自分の存在理由が分からなくなってしまった人が一定数以上いる。一方的なメッセージも、双方向な手紙でも、その存在を確かにして下さる存在(如来さま)を伝えるよう、いつも以上に工夫している。

(22) ご意見やご感想等ございましたら自由にお書きください。(68件の回答)

※御礼等の記述は省略させていただきました。個人が特定できるような文言を一部修正しています。

◇檀信徒とのつながり、寺院運営について

- ・総代や門徒の中でも行事中止すべき、対策して縮小してもやって欲しい、などの温度差があり、すべて中止すべきの意見の方は自粛警察のような言動にもなり、お寺としても対応に苦慮している。
- ・普段の心掛けが今日の結果。檀信徒との絆がしっかりしていればコロナ禍の中でも会いに来てくれます。僧侶は乞食である事を忘れてはいけません。
- ・コロナ禍によって、檀家様の生活力もなくなり、葬送の儀や法要の必要性に悩み布施力もなくなり、このままでは寺の維持もできなくなるのではないかと心配しております。しかし、困っている檀家様へは、臨機応変に対応しています。コロナ禍によって、この時こそ、檀家様との絆が深まる時でもあります。年間儀式も中止も視野に入れましたが、当寺では、拡散防止策を行い柵経・施餓鬼を実行しました。檀家様からの拒否はほとんどなく儀式を執り行うことができました。「疫病退散」のお札は、すぐになくなりました。

家族の安泰は、皆祈願するものです。だからこそ檀家様の寺であります。

- ・今のところ寺院事業の運営には劇的な変化はありませんが、年回法要に際して、参加人数が減少しているのは否めないところであります。お子さん、お孫さんなどの欠席が常態化すると、若い世代における寺院との疎遠化が進むのではないかと危惧しております。
- ・今後、社会全体が金銭的に疲弊していく中で、数年後にはその影響が寺院にも及んでくると思います。今から、その影響が来る（お布施の減少）ことを前提に、特に寺院の維持経費削減に努めていきたいと思っています。
- ・不要不急は控える、感染防止を思うと大切であるが、月命日のお参りが当てはまっていると考える方もいるようで、より一層寺離れが加速するのではと危惧しています。
- ・コロナ禍を経験したからこそ、檀信徒と寺院の関係がこれまで以上に近くなるよう努めてまいりたいと思います。
- ・お月参りのあるお家は、僧侶との関係性がコロナ以前から非常に密になっているからでしょうか、特にコロナを心配されることなく、お月参りを続けてくださいます。
- ・中山間地域のお寺なので地域のお祭りやイベントがほとんど中止となっている現状の中、法座を開いたら、やはりみんな喜んでくれた。感染対策を徹底してでも人が集まる機会は絶対に必要だと感じた。
- ・コロナ禍の中、どのように寺院運営をしていけばいいのか、手探り状態です。
- ・法事の参加人数が減っており、特に法事をする家の若い人が来ないことが気になっている。若い人が法事に参加しないことにより、法事を行うという事の減少傾向が加速しないか心配している。それに付随して、布施収入や布教機会が減少が見込まれることが予想され、将来の寺院運営に不安を感じている。今回のコロナだけではないのだが、墓じまいなどその他の問題に対しても、住職が「困った」とか「ウチの檀家はしょうがない」などと愚痴や文句を言う割には、積極的な布教や対策的な動きをあまり起こしておらず、かといって自分の立場ではできることも限られており、自分自身も法話等布教が決して得意ではないこともあり、もどかしさを感じている。(住職も一応コロナに対しては、消毒液の設置、空気清浄機の購入等も含め基本的なところはおこなっている。)

◇あり方の再考

- ・この8ヶ月ほどで大きく社会が変化したことを実感している。夏までは、もうすぐでウイルスは落ち着くだろうと考えていたが、今は新しい在り方を視線の先にしっかりと据えて動かなければならないと思っている。名前も知らない方の訪問、電話、質問が増えた。形式ばかりのものが見事に停滞、中止、廃止となっていくのが拍車がかかるのだろう。寺院や僧侶方の活動も試されていると強く感じている。焦らず、しなやかに対応していく力が必要と思う。
- ・改めて今回のコロナ感染症による人々の不安や危機に直面した、自らの意味やお寺の意味や役割を本当に見つめなおす時にきている。
- ・メッセージの発信が本当に寺院、仏教がやることだったのか？。個々の寺院の護持ばかりを気にする時期なのか？コロナ禍で問題にしていることがあまりにも寺院僧侶中心ではないか。なぜどの宗派も医療従事者に宿泊施設を無料提供しなかったのか。本当に考えるべきことを考えようとしたのか。
- ・近所の方で、ご主人のお年忌を勤めたいと菩提寺に相談した所、断られたと嘆いていた方がおりました。「やらない」という選択肢は簡単ですが、どうしたら法要を勤められるのか、オンラインや家族だけや様々な形を検討し、出来る範囲で施主様の希望に沿える寺院が増えて欲しいと願います。今回のアンケートを通して、活動を停止してしまった寺院に少しでも考え行動に移すキッカケを与えてくださればと願います。
- ・コロナ禍で簡素化されるご葬儀もありますが、逆にしっかりと別れをしたいと相談されることもあります。ご葬儀が家族のものになっている感覚もあり、以前は家族の思うように送ってあげることが難しかったのかもしれないとも思います
- ・オンライン法要を行うことで、やはりリアルな法要の大事さを知ることができた。このような危機だからこそ僧侶の役割の大事さを知ることができた。
- ・当寺院は普段布教活動は積極的に実施していませんが、今回のアンケートを通じて、他寺院が様々な取り組みをしていることを知り、とても勉強になりました。なかなか実施までは至らないかもしれませんが、参考にしたいと思います。
- ・新しい日常に備えて、僧侶としてのあり方、檀信徒との接し方をしっかりと考えてまいります。
- ・コロナ禍において、生活に最低限必要な物と不要な物が明確になった、と仰る方が居られます。檀信徒の皆様にとりまして、寺はバツサリ切られる物かと覚悟してしておりましたが、思いの外、寺の存在を有り難く思ってくださいる方が多いしということを確認致しました。
- ・コロナを機としてあるいは口実として、伝統的な宗教儀礼や習俗、あるいは歴史的的精神的文化が途絶えてしまうことが心配である。一部の寺院では、これを機に（コロナ終息後も）あまり収入のない行事を止めてしまうところもあるようだが、問題だと思う。過度なオンライン文化化が心配である：対応できない人と対応できすぎる(?)人との格差が広がり、普通のコミュニティの場がなくなる。(この意味での二極化が進むだろう)一方で(観光寺院、信者寺の住職の印象だが)、人々の信仰心が強くなったように感じられる：観光客は減少したが、合掌してお参りしている時間が長くなった。秋から再開した写経会などは参加者が増えた。高額なおさい銭がはいっている。まだ分からないが、以上のような変化の中で、寺院の役割を再考する必要もあるだろう。
- ・多くの人々が不安を抱えているこのような時こそ仏教や宗教が力を発揮する時だと思えます。慌てず、

焦らず、僧侶として自分ができることを柔軟に行っていきたいと思います。

◇新型コロナウイルスについて

- ・ありもしないウイルスをあたかもあるかのようにする PCR 検査を早く止めさせねば、この騒動は終わりが無い。
- ・感染者の多く無い地域ですが、最近増加傾向で、少しモヤモヤ感があります。
- ・現在近郊で感染者が出ていないので、今のところ法務に影響は出ていないが、感染が広がった場合、対策を講じなければならない。
- ・複数の僧侶で行う法要など、私の知るところ皆マスクを着用せず読経しております。ニュース等でも感染リスクの高い場面は飲食時の“会話による飛沫”と聞きます。読経中の飛沫も同様と考えております。複数人の僧侶で行う法要などのマスク着用状況や対策など皆さんどのようにされていますでしょうか？（僧侶のみで活動する際、感染に対し無警戒な僧侶を多くみております）
- ・新型コロナウイルス感染症は肉眼では見えないウイルスとの闘い。見えないものへの畏怖と畏敬という相対する考え方をきちんと整理して、寺院・宗教者が発していかなければならないと感じている。そうすることが新型コロナウイルス感染症に関わる差別や偏見の防止につながっていくのではと思っています。
- ・それぞれの立場でコロナ禍を経験しているので、コロナ対策の正解がそれぞれ違う。今はいろいろな意見を認めていけるように努力することも大事なのではないか。

◇メッセージの発信

- ・不安をかかえているかたに、メッセージを届けるという考えがなかったです。
- ・今回の新型コロナの騒動を通して、寺院が発信できる情報とは何かを考えさせられました。自分自身は副住職として、世間から非難されないように、世間に合わせた対応や対策をしてしまっていたらと思う。しかし、住職である父は、新型コロナウイルスに関する情報を日々集め、勉強し続け、自分自身が納得できる説を見つけるまで毎日研究しており、現在も日々情報収集を続けています。僧侶が仏教とは関係のない、新型コロナウイルスに関する特定の説を全面的に支持し、情報を大々的に檀信徒の皆さんに伝えることに、当初、私はかなりの抵抗感を覚えました。しかし、人々の不安や心配を少しでも軽くしたいという強い気持ちは、仏道からは外れてはいないと思うようになりました。自信を持って伝えられるだけの情報収集と、確信が持てたならば、信念を貫いて伝えるべきだと思いました。今後は、寺院や僧侶も、政府やメディアの情報のみを鵜呑みすることなく、日和見主義に陥ることなく、情報を掴み取って判断していく力が益々必要になってくるのではないかと感じた1年となりました。
- ・お寺のことを発信することは大切ですね。何のために発信しているのか？を受信者はシビアに感じているなと思います。『発信→理解してもらえ→返信してくれる→受信する』この流れ大切ですね。

◇オンライン化について

- ・研修会等がオンラインで参加出来るようになったのは、地方在住のものからするとコロナ禍の中での良いことでした。コロナ後もオンライン研修は続けて頂きたいです。
- ・コロナ禍において残念なことばかりではなく、オンライン配信が一般化するなどして、さまざまな手法により可能性が広がったように思います。

- ・オンラインは便利ですが、収入があるどころか赤字です。有料化は考えていかななくてはいけないことだと思っています。ただ、ネット環境によって不通になってしまうことがあるなど、なかなか難しいと実感しています。
  - ・積極的にウェブを活用すべきと思いますが、どこまで対応ができるか、住職（私）個人のがんばりには限界があるように感じます。
- ◇自粛によりゆとりが得られた
- ・寺院同士の付き合いについては今回項目がありませんが、随喜の行き来に、青年会や組の行事がストップしたことで私自身オーバーワークから解放されました。今くらいの負担がちょうどよく、また全てを以前通りに戻す必要も無い気がする。
  - ・今まで忙しすぎたので、法事の減少等で正直心にゆとりができた。経済的に収入は減少したが、生活に困るほどではない。
- ◇自死・経済的困窮への取り組み
- ・コロナ禍で、失業したり、収入減少したり、就職が思うようにいかず、特に若い女性の不安が増長しており、それが8月以降に女性の自殺者数の増加につながっているとの指摘がある。当寺では自殺を思いとどまるようにとの願いをこめて、食べ物を募集したところ、お檀家様や地域の皆様から、米1t以上、白菜・かぼちゃ・じゃがいも・さつまいも・長ねぎ・りんご多数など、多くの食べ物が集まった。それらを、地元の県内各地でこども食堂を運営しているNPO法人に贈り、県内の貧困家庭600軒に年末までに配布して、何とか助け合い、この苦しみを乗り越えていくようにしたいと取り組んでいる。
  - ・先日アルバイトがなくなった学生にボランティア30名で食材等（驚くほどを協力を頂き）境内で配布いたしました。精神面だけでなく生活の支援を行えて感謝されました。
- ◇宗門・本山について
- ・本山が末寺を積極的に守ろうとしない在り方に憤りを感じる。
  - ・都市部の本山や教区寺院、宗派は、こういう時こそ遠隔地に檀信徒がいるお寺に力を貸してほしい。
- ◇その他
- ・人と人のつながりについて、不易流行ということを思う。
  - ・お寺も不安である。
  - ・お寺では、ただ単に時計の針が10年先に進んだだけで、いずれ起きる現象に過ぎません。どうってことはないです、その準備をしてるかしてないかですし、元々人々の苦しみには寄り添ってるので、コロナで思うことは特にありません。
  - ・疫病からの社会不安は宗教者の姿勢云々と、大上段に構える問いかけ以前の問題なのではないかと思えます。
  - ・今回の葬儀離れは新型コロナウイルスが主ではなく、高額な葬儀費用とお布施の使い道が問題だと都会の友人に聞きました。
  - ・宗派の学生対象の研修等が中止になったり縮小して行われたりしており、宗門大学の授業もオンラインがメインと聞いている。次代を担う現在学んでいる若手僧侶（学生）の質に影響を与えないか心配している。